

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500406
法人名	社会福祉法人すいよう会
事業所名	グループホーム陽だまり
所在地	新居浜市郷3-16-40
自己評価作成日	平成24年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年7月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の笑顔と共に、生活の質を高め生き活きと暮らして頂けるように支援する。自然・地域・人との暮らしの中でご利用様が重度になっても自分らしく、自然に最期を迎えられるその日まで過ごすことができるよう適切なケアの継続を心がけています。また、職員にいたっては、根拠に基づいた専門性の向上・介護技術の習熟に力をいれ、ケアの場面での職員もが同様に判断しケアの選択をすることができる教育を実施しています。さらに、人間性を高めるための良書の購読をはじめ朝礼を利用した意識統一と人材育成。自己啓発に力を入れて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●職員が知り得た利用者個々の暮らし方の希望について、まずは、職員間で、「支援が可能か」ということについて話し合い、ご家族と話し合っておられる。「釣りに行きたい」と希望があれば、事業所独自の「夢プランシート」を使って、「利用者が取り組めることは何か、いつ、どこで、誰が、何をどう実現するか」実現に向けて、具体的に計画を立て取り組まれている。又、利用者から、「自宅に帰って生活したい」という意向があり、職員で話し合い、遠方に住んでおられるご家族にご本人の思いや意向を伝え相談されて、月に何度かご自宅に戻って過ごせるよう支援されている事例がある。ご自宅に戻る日には、昼食用に事業所でお弁当を作ったり、スーパーに立ち寄りお惣菜を買って準備して、夕方までご自宅で過ごされている。送迎は、職員が行っておられる。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム陽だまり

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

田中 加代

評価完了日

平成24年6月25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人全体の理念と、事業所の理念を職員一同が共有している。誰でもが見ることができる位置に掲げている。 また、事業所の理念に基づき「ほっメール運動」を推進している。職員どうしでエールを送りあい、笑顔で働く事のできる事業所であるように実践を行っている。	
			(外部評価) 「ゆったり笑顔で寄り添い暮らす」という事業所理念の実践に向けて、今年度は、「地域と共に、家族と共に、開かれたホーム」を目標に決めて、事業所内のフリースペースも使用し、ご家族や地域の方と交流すること等にも組まれている。管理者は、「笑顔」が、理念のキーポイントになると考えておられ、職員同士で、よいところを見つけて褒め、心地よい雰囲気職場環境を作り、職員が笑顔でケアを行えるよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の1員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方がこいのぼりを提供していただき設置までお手伝いしてくださる。避難訓練への協力を要請し理解を深めていただく、また自治会の年2回の清掃活動には、職員が参加することで事業所の職員の顔がわかる関係づくりを心がけている。子供太鼓台の来所によるふれあい、きてつか〜祭による交流、地域の子供たちによるキッズヘルパーに、盆踊り大会と地域の1員としての交流がとれている。	
			(外部評価) 事業所で、そうめん流しや芋炊き等を行う際には、地域の方やご家族もお誘いして一緒に楽しまれている。又、地域行事へ誘っていただき、夏には盆踊り大会に利用者とかかけ、やぐらを囲んで地域の方と輪になり一緒に踊られた。地域の小学校からの依頼もあり、管理者は、小学5年生を対象に、「高齢者との接し方やキッズボランティア」についてお話をされた。そのことがきっかけとなり、キッズボランティアには、地域の小学生24名程の申し込みがあり、事業所では、利用者へも配慮して数名の子ども達を受け入れられた。子ども達は、利用者とお話したり、ゲームをして遊んだり、折り紙で折った動物を利用者にプレゼントしてくれた。利用者は子ども達に、靴の並べ方を教えてあげるような場面もみられたようだ。参加された児童の保護者から、「子どもが楽しかったまた行きたい。と言うのですが、来年もありますか？」との問い合わせもあるようだ。管理者は、今後も続けて受け入れたいと話しておられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議に於いて様々な勉強会を行うことで、認知症の方への支援方法などを促し。また、地域交流の場で共に楽しむことでより理解を深めていただいている。ホーム長が自治会の世代交流会での講座を実施するなど、折に触れてお話をさせていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、日頃の様子を職員がDVDにまとめ参加者の皆さんに見て頂くことで日常生活への理解とありのままの生活をより深く感じていただくことができている。また、認知症新薬の勉強会や、食事に関する勉強会、看取りについてなど会議後のお花見・芋たきの実施をすることで、ざっくばらんに皆さんの感じていることなどを聞きとりやすい運営をしている。また、頂いたご意見についてはミーティングなどでフィードバックできるようにしている。納入業者や近隣の方へも参加の呼びかけを行っているがなかなか参加に結びつかないことに課題が残る。	
			(外部評価) 事業所では、地域の方やご家族に会議の開催時間、曜日等の希望についてアンケートで聞いてみられ、その希望に合わせて、「19時～20時」「土曜日か日曜日」に会議を開催されている。会議では、事業所からの活動報告を行い、勉強会も実施されている。食事について勉強された際には、参加者にミキサー食を試食していただいた。又、季節によっては、午前中に会議を実施しその後、利用者と一緒にお花見を楽しむような機会も作られた。ご家族からは、「認知症外来はどこにあるのか？」等の質問も出され、管理者が情報提供された。管理者は、「地域の方に参加を呼びかけるも、なかなか来ていただくことに結び付かない。」と話しておられた。	事業所は、意義深い会議内容に取り組みされており、今後さらに地域のいろいろな方に参加していただけるよう、事業所からの呼びかけを工夫していかれてほしい。事業所は、会議を「気軽に意見を出し合える会議にしていきたい」と考えておられる。利用者へ直接かかわるクラブ活動の講師等、利用者の暮らしを支えるチーム作りに向けて、事業所・利用者の理解者、協力者となっていたいただきたい人に、積極的に声かけされてみてはどうだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市役所からの運営推進会議への参加時には、伝達・連絡事項等やご意見がないかお伺いするようにしている。また、サービスにおける不明な点については、都度ご相談してアドバイスを頂けるようにしている。介護支援専門員による新居浜市介護支援専門員連絡協議会への参加などにより市内における他事業所の動向や市の意向などを知る機会がある。	
			(外部評価) 市の担当者は、運営推進会議に参加され、「介護保険制度の改正」「ノロウィルスの発生状況、気を付ける点」等について話して下さっている。事業所では、介護相談員を2ヶ月に1回 受け入れておられる。受け入れ時には、先に事業所から利用者個々の状態や注意点をお話して、利用者のお話をより深く聞いていただけるよう努めておられる。「家に帰りたい」「タバコが吸いたい」等、聞き取っていただけた内容については、介護相談の実施記録に、その後「どのように支援しているか」を記入されていた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束することによる危険性を十分理解できるよう教育している。また、現実的対応として、段階を追って利用者の安全と拘束のないケアを選択することができるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者は、年1回、法人の「事故防止委員会」に出席して その後、事業所内で、「伝達講習」を行い、すべての職員に内容を周知されている。転倒が心配される利用者については、ご家族と話し合い、夜間のみセンサーマットを使用されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全体研修及び、管理者研修・事故防止委員会などにおいて虐待防止について学ぶ機会がある。また、困難事例・ケースの当たった場合は、日頃より感じた事を話すことができる関係づくりなどを行うことにより検討を行い、管理者が個々のフォローと虐待に繋がらないような教育を行うようにしている。(入居者に対しての理解ができる事例紹介など。)また、苦しいとき。感動したときは気持ちを共感・共有できるように対処していることが虐待防止に繋がっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の制度に対しては該当者がいないこともあり、ほとんど学ぶ機会がない。しかし、運営推進会議などを利用して成年後見人についての制度の紹介などを法人内の詳しい職員にお願いするなどの機会を持つことがあればと感じます。自立支援については、社会的な判断ではなく生活の中で判断が難しくなった入居者に対しても選択できる機会をケアの中で持つことができるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 介護保険制度の改定があり、ご家族には運営推進会議などを通してご説明し、不参加者にはホーム来所時に説明を実施している。 食費についての取り扱いや、身体レベル低下による配食導入時には、ご家族と検討する機会を確保し納得頂けるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族の来訪時には、必ず近況を報告しケアの取り組みの確認などを行いコミュニケーションをとるようにしている。運営推進会議などで、地域からの参加者に意見等を表せる機会が持てている。意見箱の設置も行っている。また、利用者本人からの要望が出ることもあり、その人らしく生きる為にご家族の意見にも耳を傾け利用者に反映できるようにしている。 (外部評価) 介護報酬改定による利用料金の変更に伴い、事業所では利用者のご家族と個別に面談する機会を作り、説明された。以前は、3時過ぎて入浴する場合は、利用者はパジャマに着替えるよう支援されていたが、ご家族から、「パジャマを着るには少し早過ぎるのではないか」との意見をいただき、職員で話し合って改善された。ご家族は、運営推進会議に参加され、職員とともに介護等の勉強をされており、ご自身の参考にされている方もある。又、職員の取り組みを知ることが事業所への信頼にもつながっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的な管理者が、マイケアプランを利用して面接を行い、その際に意見や提案などを聞く機会を設けている。それ以外にも朝礼、ミーティングにおいてスタッフで話し合う機会を持ち、業務面・メンタル面においても日頃の勤務に反映させている。	
			(外部評価) 事業所では、年2回 管理者が職員の面談を行っておられる。職員は、看取り支援に取り組むにあたり、口から食べなくなった利用者には、少しでも「食べさせてあげたい。食べてもらいたい。」という思いから、食に関しての勉強会を実施された。勉強をすすめて行くほどに「だんだん食事ができなくなることは、自然のことである」ということを理解された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) マイケアプランを作成することで、目標をもって取り組めるようにし、火代表者・管理者と定期的に面接を行うことで、個々の努力や実績・勤務状況を把握している。また、人材育成や読書会・地域勉強会へ参加することで向上心を持ち勤務することができている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間研修計画を実施している。また、職員にそれぞれケアのテーマを持たせて研修を選択し、伝達講習できるようにしている。他にも、事業所の生活支援技術・認知症勉強会・学習療法勉強会・早朝読書会などを定期的に行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の研修・新居浜市認知症を考える会・地域合同研修などを通して他の同業者と交流を持つ機会を作っている。相互訪問は、体制づくりを急いだため現在は行っていない。しかし、他事業所への見学に行き情報交換を行う機会があった。他にも、学習療法についての見学・意見交換をする取組みをしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に訪問・面接を実施。生活の様子などを聞き取る時間を確保し、ご本人が困っていることや、不安などを正しく理解し支援できる体制を作るようにしている。「より添うケア」の意味には、生きてきた背景をしっかりと見つけ、全てを受け入れてあげることにあると考えます。ホームの理念「寄り添い」には、形だけでなく、そういった意味も含んでいます。それが、信頼と安心に繋がるように努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に訪問・面接・ご家族との話し合い・聞き取りの時間を確保、不安なことや要望を聞いている。何よりも、陽だまりのケアの理念と方針を理解頂けるように、ホームの生活をご家族に見学していただいたり、話し合う時間を作り関係づくりが良好に行くように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前にしっかりと要望をお聞きすることや、利用者様に関わった関係者からも今までの支援状況などをお聞きすることで、支援を見極める手立てとして利用した。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「共に今を生きる。」ことを大切にしている。生活の中に役割や生き甲斐を持てるようにすることで、職員が「ありがとう」と利用者に伝えることができるように、支えあう相互関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) できるだけ、ご家族と共に過ごす機会を設けることができるような行事などを企画している。お誕生会や米寿・白寿など節目には、ご家族の意向をお伺いし、希望にこたえられる体制をつくるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域での行事への参加や、関わりの深かった場所への外出。他にも、ご友人とショッピングに出かけたり、定期的に友人・親戚が訪問されている。意思疎通の難しくなっている方には、職員がコミュニケーションをとれるよう支援することで、心地よい時間をとることができるようにしている。	
			(外部評価) 同法人の施設に入所しているご主人に、ほぼ毎日、会いに行く利用者がある。普段の会話の中で、利用者がよく「懐かしい」と話される「以前住んでいた島」へ出かけてみられたことがある。古くからの友人が事業所に迎えに来られ、一緒に買いものに出かけられたり、時には、友人宅へも行かれて交際している方がいる。調査訪問時には、近くにある系列グループホームの利用者と職員の方が収穫したキュウリを持って来てくださった。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の性格や好み、現在の日常生活レベルに対応し、快適に関わりを持つことができるように、配席や外出者の組み合わせに気をつけている。トラブルのないように職員が察知し間に入っている。また、朝の会など皆さんで楽しんでいただくことで孤立を防ぎ絆が深まる関係性を作ることが出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 法人内の特養へ入居された利用者に対しては、グループホームでのケアのポイントなど情報を提供し変わらず生活していくことができるように支援を行った。また、移住後にもご家族が近況報告に訪問していただけている。他界された方については、45日終了時にご家族と面談する機会をもった。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 月1回実施のミーティングにおいて、利用者の各担当が中心となりお1人1人のカンファレンスを実施し、豊かに暮らして頂けるように検討する機会を設けている。意思を伝えることができる方については、生活の中で意向を聞いたり、学習療法に取り組まれている方については、回想・傾聴をする良い時間となっている。また、困難な方についても今年度は、夢プランの作成ということでご家族の協力を得て実施している。 (外部評価) 「一緒にいる」「一緒に行く」ケアが実践できるよう、管理者は職員に話しておられ、職員は利用者へ寄り添うことを心がけて、「ご本人の行動の目的を知る」ことにも努めておられる。利用者のこれまでの情報や、思いを知ることができるように、ご家族や以前利用していた介護サービス事業所からも情報収集されている。入居後、利用者が書いた文字や塗り絵作品等を、個別にファイリングされており、字や色の塗方の変化等をみて状態変化を知るための参考にされている。	個別のファイルには、情報量も多くなってきており、評価の機会をきっかけにして、以前からの情報を見やすいようにまとめられてはどうか。その作業を通じて、個々の思いや意向を探ったり、さらに、ご本人らしい暮らしが続けられるようなケア等の工夫について考えてみてはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族からの聞き取りだけでなく、学習療法・夢プランづくりの中で1人1人の人生を日ごとく機会を儲け、習慣や価値観そして「想い」にそった生活支援に活かせるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1日の過ごし方は、日常生活自立度により個々にちがっているが、朝の会やおやつ時間をプログラムとして設けることにより、心身状態の把握、生活の把握をできるようにしている。他にも、個性に応じて個別の生活プログラムを持ちリズム感のある生活を過ごされているご利用者もいらっしゃいます。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	月に1回は、ケアプランの評価を行いご家族に見ていただいている。また、各担当職員により課題・ケアの変更についての検討をミーティング・カンファレンスを利用して行い、ケアプラン作成に反映させている。	
			(外部評価)	職員が知り得た利用者個々の暮らし方の希望について、まずは、職員間で、「支援が可能か」ということについて話し合い、ご家族と話し合っておられる。「釣りに行きたい」と希望があれば、事業所独自の「夢プランシート」を使って、「利用者が取り組めることは何か、いつ、どこで、誰が、何をどう実現するか」実現に向けて、具体的に計画を立て取り組まれている。又、利用者から、「自宅に帰って生活したい」という意向があり、職員で話し合い、遠方に住んでおられるご家族にご本人の思いや意向を伝え相談されて、月に何度かご自宅に戻って過ごせるよう支援されている事例がある。ご自宅に戻る日には、昼食用に事業所でお弁当を作ったり、スーパーに立ち寄りお惣菜を買って準備して、夕方までご自宅で過ごされている。送迎は、職員が行っておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	日常チェック表を中心に身体的な様子の記録を行い、個人観察記録においてケアの気づきや考察を記録するようにしている。朝礼・業務日誌を利用した申し送りを行うことで情報の共有を図っている。モニタリングの際は、担当者が記録の振り返りを実施することで介護計画の見直しに反映できるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	個別対応として、ご本人のニーズに合わせて、周辺の関連事業所へ遊びに行ったり、家庭へ帰る機会を支援している。また、入居者の地元自治会行事に誘っていただき、自治会の行事に参加している。夢プランより得た希望を利用して釣りへ行ったり、潮干狩りへ出かけたり融通のきく範囲ではありますが、柔軟に取り組んでいる。	
			(外部評価)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	～地域の縁結び～「きてつか～祭」では、ホームからの出店ブースを設けて入居者が販売することで地域の方々と触れ合う機会がある。フリースペースももの部屋を利用して、地域より絵手紙教室・オカリナ演奏会・フラワーアレンジメントの先生にお越しいただくことで、楽しく豊かな暮らしが送れるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居者ごとにかかりつけ医の受診はご家族が行っている。また、法人連携医による1ヶ月に1回の応診を行っている。体調の悪い場合はご家族の同意を頂き、定期往診以外にも必要に応じて受診の支援をしている。看護師・管理者はかかりつけ医に都度ファックスで指示や相談を頂くようにしている。	
			(外部評価) 基本的に、病院への受診はご家族に付き添っていただけるようお願いされているが、利用者の送迎等が難しいご家族もあり、事業所で対応される場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日頃の健康管理のデータや様子を適宜看護師に連絡している。また、看護師・介護職は申し送りなどを利用して関係を密にし個々の利用者が適切な受診や看護を受けることが出来るように努めている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は、介護サマリを提出するようにしている。また、入院の場合は家族・病院関係者と定期的に訪問し情報収集している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化・終末期に向けた勉強会への参加・実施している。職員は積極的に参加している。また、ご家族の終末期の希望を事前にお伺いし、確認をしている。また、ご本人の生前の意向に応じて看取って頂きたい医師をお願いしたり、関わった方々がお会いされている。	
			(外部評価) 年1回、管理者はご家族個別にお話する「家族カンファレンス」の場を作っておられ、看取りについても、ご家族の意向確認をされている。看取りを支援するにあたり、法人内事業所の看取りの支援事例を用いて研修会を実施された。実際の看取り支援時には、利用者ご本人からお聞きしていた、「かかりつけ医の〇〇先生に最期をみてもらいたい」というご本人の希望に沿って、ご本人のかかりつけ医にもその希望を伝えて協力し合って支援された。最期のときは、利用者のご家族がゆっくり過せるように配慮され、亡くなる直前には、ご家族、利用者は「ありがとう」とお互いの気持ちを伝え合うことができ、又、利用者の希望通りに、最期をかかりつけ医の先生に診ていただけた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<p>(自己評価)</p> <p>急変時・事故発生時の対応方法の揭示をおこなっている。初期の判断基準を所定の場所にファイルして初期対応や判断の基準を周知している。判断できない事態については早急に看護師・管理者へ報告を実施。ミーティングや生活支援技術の中で勉強会を実施。</p>	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<p>(自己評価)</p> <p>年2回の避難訓練の実施を行っている。消防署より砂人形をお借りしたり、消火器の使い方・発生時のご利用者の安全で迅速な運搬方法の指導をお願いしている。非常ベルを室外へ設置することで近隣の協力が素早くして頂けるような体制をとっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所ではスプリンクラーとともに、地域にいち早く助けを求められるように屋外の住宅地側に非常ベルを設置された。設置に際して、職員は、近隣住民のお宅を訪ねて行かれ、「火災時、非常ベルが鳴ること」を説明されて、「避難した利用者の見守りの協力」、又、「避難訓練時の参加協力」をお願いされた。さらには、利用者が生活している環境や間取り等を見ていただけるよう、「見学会の案内」もされた。避難訓練時には、近隣住民の方も2名程参加して下さっている。自動通報装置には、法人の施設と地域住民の方を2名登録されている。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<p>(自己評価)</p> <p>トイレ誘導時の声かけへの配慮。トイレ内でのエチケットタオルの利用をし羞恥心に配慮している。言葉かけについては、エール言葉・幸せ言葉を活用して対応することで人格を尊重しただけ目線にたって話しをし、自信をなくすことのない言葉かけができるよう対応している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の中には、他者とのかかわりや、皆と活動することを嫌がる方もおられ、ご本人の希望で自室で食事をされている。配膳、下膳、食器洗いは、ご自分のものはご自身が行われており、その際には、事前にスペースを確保をして、職員に気を使わず行えるようにされている。職員は、利用者の介助を行う際、協力をお願いする時には、必ず「ありがとうございます」とお礼の気持ちを伝えるようにされている。さらに、居室の介護・排せつ用品の収納等については、利用者の気持ち等にも配慮して工夫できることはないか話し合われてみてはどうか。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<p>(自己評価)</p> <p>自分らしさとは、その方が選ぶ全ての一つ一つです。出来る限り衣類・飲み物・食べ物・行きたい所、したいことを尋ね、選択が難しい場合には選択肢を少なくし、それでも難しい方については身体・環境・精神面・習慣・好みを理解し自己決定に一番近い状況に近づけることができるように働きかけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は、ホームの生活支援のオペレーションにしたがって支援を実施しているが、基本的には「利用者優先」で1人1人のペースを大切にし、少しでも人らしい「当たり前の生活」を過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節にあったおしゃれができるように、衣類の入れ替えや帽子スカーフなど、ご家族の協力を頂いている。 朝は、洗顔・整容を声かけさせていただき、洗顔の困難な方については、暖かいタオルで顔を拭くことができるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の身体的レベルや嚥下状態に応じてソフト食・ミキサー食にも対応し、最後まで口から食べることができるように取り組んでいる。畑で取れたものをご利用者が調理したり、下ごしらえやお寿司・巻き寿司・漬物作りをしている。全体の配席も考慮し好きな場所で召し上がったり、職員が席につくことで、お互いが楽しく食事できる工夫をしている。1人鍋や正月の塗り容器の使用・季節料理の提供も実施している。 (外部評価) 法人の栄養士が献立のベースを考えてくださり、それをもとに、事業所で食材等も食べやすいものに変更して、食事専門の職員が調理されている。パンがお好きな利用者が多く、朝食は、週に3回、主食をパンにされているが、利用者の状態に合わせてパン粥にされたり、パンがお嫌いな方にはご飯を用意されている。事業所では、「今、出来ることに光を当てるケア」に取り組んでおられ、利用者の「出来ることを、出来る時に」職員が見極めて、下準備、調理、配膳、下膳等をお願いされている。調査訪問時の昼食時、料理の得意な利用者の方が、お膳にあるさつまいもの煮ものの調理方法やコツを教えてくださいました。嚥下や咀嚼状態によっては、食事がすすまない方もあり、ご家族と相談して「ソフト食」を外注されて、食事がすすむようになられたようだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による献立表を基に、個別に応じた食事を提供している。水分は1日食事分を除き1500ccを目標にしているが、1人1人の体調や体重に応じて目標を決めて摂取量の記録をしている。また、本人の好みや習慣に応じた季節の料理から栄養を摂取することができるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを行っている。法人内の歯科衛生士により毎月1回程度口腔チェックを行っている。また、衛生士の指導や必要に応じて、ご家族へ連絡し歯科の往診を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 薬をできるだけ使用せず、水分・食事・運動によって自然に排泄できるように取り組んでいる。日常チェック表による排泄記録により排泄パターンの把握をし、日中は必ずトイレでの排泄をしている。昼間の時間帯は利用者により布パンツ+パットの使用にするなど自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 事業所には、排泄支援について、支援を検討する担当職員を配置しておられ、その職員が中心となって利用者個々の排泄の自立に向けて支援できるよう話し合っておられる。事業所は、車椅子で利用可能な広めのトイレを増設された。トイレ内に設置された手すりや洗面台を持って立つ等、利用者の力を使って排泄ができるような環境を整い支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘への対応として、個々により適切な水分量の設定・食事・運動を行うことで自然な排便をできるように取り組んでいる。排便リズムの把握をトイレにおいて前傾姿勢や足台の利用をしている。また、便秘が身体的にも悪影響を及ぼすほどの状態になる場合は、看護師が坐薬・浣腸などの処置を医師の指示のもと行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望にあわせて毎日入りたい方には毎日入浴していただいている。入浴拒否のある方には、言葉をかけるタイミングや1日の様子から入浴日を選びすすめている。時間帯については、午後からの時間帯に設定している。法人内の「おおしまの湯」ヒノキ風呂や足湯を休日には拝借することで楽しまれています。	
			(外部評価) 毎日入浴を希望される方や、週に3回、ご自身で曜日を指定して入浴する方もいる。ご自分から意志表示することが難しい利用者は、体調やその時の様子をみながら、入浴の有無等を決めておられる。浴槽は深めで、浴槽内に台を設置する等して調節をされている。浴槽をまたぐことが難しい利用者には、職員が2名で介助して湯船で温まれるよう支援されている。職員が脱衣所に入る際には「〇〇さん大丈夫ですか？入っていいですか？」と声をかけてから入室しておられた。男性職員が介助に入る場合には、毎回、利用者を確認されており、ご本人が「いいよ。」と言われた場合のみ介助に入っておられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 寝具の見直しを行い枕のサイズや高さの調整がきくものへの変更をして個々の好みや状態にあった寝具で安心して眠ることができるようにしている。居室の室温や温度・換気・加湿の徹底を実施している。重度の方については、1時間1回の巡回やポジショニング・圧抜きを実施して床ずれ予防を実施している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の内容・副作用を知ることは、ケアの中でも大切な要素です。薬の目的を理解し、副作用をすることはリスクマネジメントでもあり、看護師からの指示を受けながら支援にいかせるようにしている。服薬の提供についてもルールを設けて間違いのないように取り扱っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホームでの役割が自然に出来ており、習慣的に掃除やお洗濯をされている。また、絵手紙教室・紙芝居会・手芸部・喫茶・外食・日帰り旅行・買い物・季節により花見や見物を希望者や体調の良い利用者は楽しまれています。週1回のパン屋さんの訪問を楽しみにされている方もおられます。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外出できるようにしています。ホームでの季節に応じた外出行事も盛りだくさんで、外食もほぼ1ヶ月に1回は行くようにしている。毎日、特養のお父さんに歩いて会いに行かれています。また、地域の方の協力を得て知人に会いに行くこともあります。 (外部評価) 地図をみる利用者で、お一人で散歩に行かれる方には、周辺の散歩コースや休憩させてくださる近所のお宅を記した地図を持って行かれています。年に数回、「日帰り旅行」を計画されており、タオ美術館、今治の産直市、しまなみ海道、いちじく狩りに出かけておられる。利用者は心待ちにされており、「毎月行きたい」と希望も出るようだ。事業所では外出に際して、ご家族にも確認を取っておられ、ご家族からは、「介護度も上っており、体調の事も考えて、特別な外出以外は控えてほしい。」と要望される場合もあるようだが、ご家族の要望にも配慮しながら、ご本人の希望等もお聞きして外出場所を検討されたり、ドライブのみを支援する等して、できるだけ外出できるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お預かり金としてホームで預かっていますが利用者によっては、ご家族が少しのお金をお渡ししていて、不安の解消と買い物の楽しむ社会性をできるだけ持ち続けていただけるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の力量に応じて、電話をかけたい時には、スタッフに申し入れしてくださっている。手紙も絵手紙教室で作成したはがきを家族や、交流のある高校生に送る機会が来ている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者がお花を欠かさず活かしてくださっています。また、玄関やリビングには、居場所として利用できるようベンチやソファを設置してくつろぐ空間を作るようにしている。南北の田畑の景色がリビングから一望でき季節感を感じることができる。入居者が好んでリビングで過ごされることもある。また、整理整頓を心がけ混乱を防ぐとともに安全に暮らしていただけるように工夫をしている。	
			(外部評価) 玄関には、利用者があじさいの花を生けてくださっており、利用者の顔写真とともに、「〇〇さんが生けてくださいました」と紹介文を添えておられた。廊下には、利用者の絵手紙の作品や外出時の写真、職員紹介の写真が飾られている。事業所では、「利用者それぞれの居場所作り」に取り組みされており、居間のソファの数を増やしたり、玄関にイスを置いたり、又、フリースペースを開放しておられ、調査訪問時には、利用者は思い思いの場所で過ごされていた。系列施設に入居するようになった利用者のご自宅で飼っていた猫を事業所に譲ってもらって飼っておられ、利用者はそれぞれに馴染みのある猫の名で呼んでかわいがっておられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングは、食堂と畳みの構成になっている食卓テーブルを家庭的なテーブルにし分散することで、リビングソファだけでなく居場所を選択することができるようにしている。玄関ホール・ももの部屋・リビングソファは1人がけを用意してゆっくりできる場所を作っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具を持ってこられている方もいらっしゃるし、自分の居室と同じ配置にすることで、生活しやすく過ごせるようにご家族とも相談しながら配置している方もいらっしゃる。壁には、写真。出窓には、頂いた花を飾るなどしている。手芸部で作成したのれんを喜ばれ使用されている。	
			(外部評価) 事業所の事業計画に今年度、「個性ある居室作り」を目標に決めて取り組まれている。入居前には、ご自宅のお部屋の様子を見せていただき、できるだけご自宅と同じように生活していただけるよう、家具の配置にも気を配っておられる。ご自分で買った観葉植物を窓際に飾りお世話している方や、利用者の身体状況により、ご家族と話し合い、クッションや浴室用のマット等を使って、転倒や壁に衝突しても衝撃が少ないようにしている居室もみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホーム内は、整理整頓清掃を心がけることで職員が効率的に仕事をし、利用者が安全に暮らすことができるようにしている。また、わかりやすくする為の表示や必要な道具などの設置によりできることが継続するよう工夫している。	